# 長総大付 8強ならず

## 東山に0－3

第100回 全国高校サッカー選手権

サッカーの第100回全国高校選手権第4日は2日、東京・駒沢陸上競技場などで3回戦8試合が行われ、長崎県代表の長崎総合科学大付は昨夏のインターハイ8強の東山（京都）に0－3で敗れ、4大会ぶりの8強進出はならなかった。

長総大付は1、2回戦に続いて小嶺監督が不在。試合は前半から東山に押される展開となった。29分に相手のロングスローからゴール前で混戦となり、跳ね返りを決められて、そのまま0－1で折り返した。

後半は立ち上がりから攻勢に出て、8分に右CKからDF原口が頭で合わせたが惜しくも枠外。逆に23分、自陣でボールを奪われると、シュートの跳ね返りを押し込まれて追加点を許した。終了間際にもFKからの展開で3失点目。それでもFW芦高らを軸に最後まで攻めたが、ゴールが遠かった。

3大会ぶりの優勝を狙う青森山田は3－1で阪南大高（大阪）に快勝し、前々回王者の静岡学園は宮崎日大に8－0で大勝。前橋育英（群馬）は鹿島学園（茨城）に2－1で競り勝ち、桐光学園（神奈川）、大津（熊本）、関東第一（東京B）、高川学園（山口）も勝ち上がった。

第5日は4日、首都圏2会場で準々決勝4試合を実施する。

（松本文泰）

▽3回戦

東山（京都） 3（1－0 2－0）0 長崎総合科学大付

▽得点者【東】藤枝2、芦谷

【評】長崎総合科学大付は東山の堅守を崩せず、3失点で力負けした。

長総大付は序盤から球際で激しい攻防を繰り広げたが、セカンドボールを相手に拾われ、押し込まれる時間が長かった。MF別府のミドルやFW西岡のスピード、FW芦高のドリブル突破などで打開を図ろうとしたが、相手守備陣に阻まれて無得点。放ったシュートも4本に終わり、相手に決定機をことごとく仕留められた。

東山は攻守の切り替えが速かった。足元の技術も高く、サイド攻撃から好機を演出。背番号10のFW藤枝が2得点と気を吐いた。

| 【長総大付】 | | 【東山】 |
|---|---|---|
| 亀井 | GK | 佐藤 |
| 深町<br>原口<br>児玉<br>平山 | DF | 卯田<br>井上<br>新谷<br>仲里 |
| 別府<br>高良<br>竹田<br>西岡 | MF | 阪田<br>松橋<br>真田<br>李 |
| 芦高<br>永田 | FW | 芦谷<br>藤枝 |
| 4 | SH | 12 |
| 1 | CK | 5 |
| 2 | FK | 13 |

▽交代【東】上田（李）中野（芦谷）木下（阪田）石原（新谷）下谷（藤枝）【長】牧田（西岡）佐藤（永田）筒口（深町）

【3回戦、東山－長崎総合科学大付】前半26分、長崎総合科学大付のMF高良（中央）がボールを奪って前を向く
＝駒沢陸上競技場（濵崎武撮影）

## 監督不在のチームけん引 主将DF児玉

### 左足首負傷も仲間を鼓舞

若い力

長崎総合科学大付の主将、DF児玉は敗退を告げる笛が鳴っても下を向くことはなかった。チームメートに整列を促し、対戦相手の元へあいさつに走った。2回戦の負傷退場から中1日で復帰。痛いはずの左足を引きずるそぶりは少しも見せず、小嶺監督がいないチームを最後までまとめ上げた。

2回戦の前半28分に悲劇が襲った。攻撃参加した際に相手と交錯し、足首をひねって立ち上がれず。「チームに迷惑を掛けてしまう」。担架で運ばれる際に涙が止まらなかった。それでも後半には「やれる仕事はある」と痛々しく足を固めてベンチでメモを取る姿があった。そして3回戦でスタメン復帰。「骨に異常はなかった」とピッチに戻り、最後尾から仲間を鼓舞し続けた。

苦労の方が多い3年間だった。大分県出身。中学時に所属したクラブチームの先輩でもある安藤翼（J2相模原）、瑞季（J2水戸）兄弟の活躍を見て長総大付の門をたたいたが、1年時は選手権の初戦で逆転負け。2年時は県予選決勝のロスタイム弾で全国行きを逃し、今季最初の試合は県大会で初戦敗退を喫した。

それでも投げ出さず、先頭でチームを引っ張ってきた。誰よりも早くグラウンドに行き、率先して練習道具を準備。部活後は最後までグラウンドに残った。常に仲間たちの様子を気に掛けて、少しずつチームの絆を強めてきた。

「悪い雰囲気の時にいかにいい声掛けができるかを考えてやってきた。うまく声に出せなかったり、とても難しかった。でも、結果が出るにつれてキャプテンをやって良かったなと思う」。負けても、そう胸を張れる。

長崎でサッカーの奥深さを知り、人として大きく成長した。「本当に多くを学んだ3年間だった」。今大会で味わった悔しさは、今後の人生で大きな糧となるはずだ。

（中島宙）

【3回戦、東山－長崎総合科学大付】後半23分、2点目を決められた直後にチームを鼓舞する長崎総合科学大付のDF児玉
＝駒沢陸上競技場（濵崎武撮影）

## 全力尽くした好チーム

### ピッチ外にこだわり成長

ロッカールーム

過去最高の8強超えを目指した長崎総合科学大付の挑戦は、8強の目前で終わった。小嶺監督不在の中で1、2回戦をいずれも1点差で制してきたが、この日は0－3で完敗。劣勢を強いられ、少ないチャンスも決めきれなかった。

堅守の東山にセットプレーから先制されて苦しくなった。左右に張るFW芦高、FW西岡を生かして起点をつくりたかったが、体をぶつけてくる相手DFに持ち前のスピードを消された。生命線だった球際やセカンドボールの回収でも相手が上手。1点を追う後半8分、CKからDF原口が今大会3点目のヘディング弾を狙ったが、わずか上にそれた。

抜きんでた選手がいなくても、まとまりのある好チームだった。「あいさつ、バッグの並べ方一つから言われていた」（DF児玉）というスタート。3年生が日常生活から見つめ直し、その姿勢を見て1、2年生が部活の意義を学んだ。MF竹田は「ピッチ外の行いがプレーに宿る」と口にする。当たり前のことを率先してやる。その心掛けがハードワークを生み、誰かがミスしても誰かがカバーできる手ごわい集団をつくった。

この日もベンチ外となった小嶺監督は大会を前に「長崎県民の方々に応援してもらっているから下手な仕事をしたらいかん。一つでも上に行けるように。それが皆さんへのお返しだと思う」と話していた。全国2勝。体調不良で第100回大会のひのき舞台に立つことはかなわなかったが、思いを受け取った選手たちはしっかりと全力を尽くした。

（中島宙）

### ひと言

◆定方敏和コーチ 一番恐れていたセットプレーとミスからの失点が大きな敗因だった。相手DFにボールを持たせて、敵陣で奪ってシュートを打ちたかったが、クリアや前線へのフィードを取られてリズムを崩した。やはり相手が一枚上手で力及ばずだった。選手たちからは小嶺先生の分まで頑張ろう、腹をくくって頑張っていこうという姿が見られた。

### 第3日の結果

（一部地区既報）

▽2回戦

長崎総合科学大付 1（0－0 1－0）0 堀越（東京A）

▽得点者【長】原口

青森山田 6（0－0 6－0）0 大社（島根）

▽得点者【青】名須川、田沢、松木、小湊2、宇野

高川学園（山口） 2（0－1 2－0）1 岡山学芸館

▽得点者【高】林晴、中山【岡】山岡

（PK）

関東第一（東京B） 0（0－0 0－0）0 尚志（福島）

（PK6－5）

静岡学園 1（0－0 1－0）0 近大和歌山

▽得点者【静】小泉

佐賀東 2（1－0 1－0）0 山梨学院

▽得点者【佐】中山、溝口

前橋育英（群馬） 6（2－0 4－0）0 三重

▽得点者【前】小池2、大竹、渡辺、笠柳、高足

桐光学園（神奈川） 1（0－0 1－1）1 帝京大可児（岐阜）

（PK7－6）

▽得点者【桐】川角【帝】松永

東山（京都） 2（1－0 1－0）0 市長野

▽得点者【東】阪田、卯田

仙台育英（宮城） 2（0－0 2－1）1 滝川二（兵庫）

▽得点者【仙】佐藤遼2【滝】島田

鹿島学園（茨城） 2（1－0 1－0）0 高松商（香川）

▽得点者【鹿】上野、松村

帝京長岡（新潟） 3（2－0 1－2）2 神村学園（鹿児島）

▽得点者【帝】渡辺2、三宅【神】福田、佐藤

宮崎日大 1（0－0 1－0）0 富山第一

▽得点者【宮】外山

阪南大高（大阪） 8（5－0 3－0）0 奈良育英

▽得点者【阪】石川2、田中、鈴木5

大津（熊本） 4（1－0 3－0）0 東福岡

▽得点者【大】川口2、高畑、稲田

矢板中央（栃木） 2（0－1 2－1）2 米子北（鳥取）

（PK3－2）

▽得点者【矢】片岡、藤野【米】福田、山田楓

▽3回戦

静岡学園 8（6－0 2－0）0 宮崎日大

▽得点者【静】川谷2、松永2、古川、菊池、玄理吾、持山

前橋育英（群馬） 2（0－0 2－1）1 鹿島学園（茨城）

▽得点者【前】高足2【鹿】林

青森山田 3（1－0 2－1）1 阪南大高（大阪）

▽得点者【青】OG、丸山、名須川【阪】鈴木

桐光学園（神奈川） 1（0－1 1－0）1 帝京長岡（新潟）

（PK5－3）

▽得点者【桐】米山【帝】武原

高川学園（山口） 1（0－0 1－0）0 仙台育英（宮城）

▽得点者【高】西沢

大津（熊本） 3（1－0 2－1）1 佐賀東

▽得点者【大】小林、高畑、碇【佐】森田悠

関東第一（東京B） 3（2－1 1－1）2 矢板中央（栃木）

▽得点者【関】肥田野、若松、本間【矢】島崎、OG